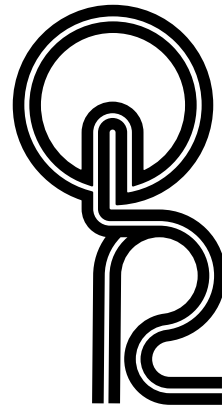


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 8 No. 1, 2001



写真： イタリアの鮮新-更新統国際模式露頭候補地 Vrica セクション。露頭上方に見える平行した2本のバンドは下から f, h マーカーベッド, P-P 境界はその下, 写真中央部より左右に追跡されるマーカーベッド e の直上部にある。熊井久雄撮影 (本文参照)。

Vol. 8 No. 1		February 1, 2001	
日本第四紀学会論文賞について	2	地震動予測地図の作成にむけて	9
第7回国際古海洋会議	2	国際研究集会情報	9
地球惑星科学関連学会合同大会	3	池辺展生会員追悼	11
ネオテクトニクス研究委員会	7	幹事会議事録	11
INQUA 層序委員会ヨ - ロッパ		会員消息	12
小委員会シンポジウム報告	8		

日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者を御推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考と受賞者の決定を行うことになっております。受賞者は6月末日までに決定され、8月に鹿児島で開催される2001年総会で表彰される予定です。

つきましては、下記を御参照の上、日本第四紀学会論文賞の受賞候補者を御推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は、第四紀通信 Vol.1 (4) p.1-2, Vol.4 (5) p.10, vol. 6 (2) p.15 に掲載されていますので、御参照ください。

記

1. 選考対象：「第四紀研究」第38巻（1999年）および第39巻（2000年）に掲載された、会員を筆頭者とする原著論文、短報、総説および特集号の論文
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、受賞候補者名、受賞候補論文名（巻号頁を明記）および推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先：
〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21内
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会
4. 推薦書類の受理期限
2001年3月31日（必着）

日本第四紀学会 2001年大会（鹿児島）

一般発表，総会，シンポジウム	日時：2001年8月1～3日	場所：鹿児島大学
普及講演会	日時：2001年8月4日午後	場所：鹿児島大学稲盛会館
巡検	日時：2001年8月4～5日	

第7回国際古海洋学会議

7th International Conference on Paleoceanography (ICP7)

日時： 2001年9月16日（日） - 2001年9月21日（金）
場所： 札幌メディアパーク “スピカ” (<http://www.stv.ne.jp/spica/>)
主催： 日本学術会議・日本古生物学会・日本第四紀学会
コンビナー： 岡田尚武・小泉 格・大場忠道

標記の国際会議が2001年の9月に札幌で開催されます。ICP7のプログラムはこれまでの慣例通り、午前中は5名ずつの招待講演、午後がポスターセッションによる一般発表という構成になり、全てのセッションは英語で行われます。午前の部のテーマは以下の通り。

- 17日（月）Paleoceanographic Insights from New Proxies
- 18日（火）Biogeochemical Processes: the ocean's role
- 19日（水）Deep water - Climate Change Linkages
- 20日（木）Suborbital Climate Variability
- 21日（金）Polar-Tropical & Interhemispheric Linkages

また、古海洋学の未来を議論するための特別セッションとして、火曜日には平朝彦（東大・海洋研）と Margaret Delaney（University of California, Santa Cruz）による IODP and paleoceanography in 21st Century、金曜日には、James Kennett（University of Califor-

nia, Santa Barbara) による基調講演の The Changing Climate of Paleoceanography: a Decadal View を予定しております。午後の部のポスターセッションは、上記テーマと密接に関連して分類され、週の前半と後半に分けて発表が行われます。

この他にも 18 日(火)には夕食会, 19 日(水)午後には市民向けの講演会と札幌市内観光, 20 日(木)には Paleomusicology (古海洋学者による音楽会), 22 日(土)には 3 コースの野外巡検が企画されています。

本会議は、古海洋・古気候研究の成果を国際的に発表し、また討論するまたとない機会ですので、一般発表(ポスターセッション)への多数のお申し込みをお待ちしております。

各種申込期限は以下の通り。

2001 年 3 月 15 日 講演要旨提出

E メールを、icp7-abstract@ep.sci.hokudai.ac.jp あてに、又は ASCII Text ファイルのフロッピーに加えてハードコピー 2 部を、北海道大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻(〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目)岡田尚武あてに、ご送付下さい。講演要旨の受付には参加登録が必要です。

2001 年 7 月 15 日 事前参加登録

一般 30000 円・学生 15000 円・同伴者 6000 円

2001 年 7 月 15 日以降は割増となります。所定の用紙に必要事項を記入し、下記に郵便あるいはファックスでご送付下さい。

〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 4 丁目 日本生命ビル地下 1 階

JTB コンベンションサービス

Fax: 011-232-5320

会議内容、交通、宿泊の詳細情報、および参加申込書の入手等は、ウェブサイト <http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~icp7/> から。

ご質問は、E メールにて

icp7-q@ep.sci.hokudai.ac.jp までお寄せ下さい。

1999 年地球惑星科学関連学会合同大会

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No. 21 (2000 年 12 月) より

会期:

2001 年 6 月 4 日(月) - 8 日(金)
(6 月 3 日(日) 青少年セミナー)

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

会場:

国立オリンピック記念青少年総合センター

どうしても電子投稿・登録の手段が確保できない方は、下記にご連絡下さい。

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113 - 0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部新 1 号館 719 室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5800-6389

各種登録開始・締切日

講演登録

登録開始: 2001 年 1 月 10 日

締切: 2001 年 3 月 30 日午後 5 時

事前参加登録

登録開始: 2001 年 1 月 10 日

締切: 2001 年 3 月 30 日午後 5 時

青少年総合センターへの宿泊登録

登録開始: 2001 年 2 月 1 日

締切: 2001 年 3 月 30 日午後 5 時

上記の各種登録は下記の合同大会ホームページから行なっていただきます。

目次

§ 1 合同大会案内サマリー

§ 2 セッション案内

§ 3 個人情報登録, 参加登録, 講演登録, 宿泊登録

§ 4 投稿費および参加費

§ 5 青少年総合センターへの宿泊

§ 6 運営機構からのお知らせ

§ 1 合同大会案内サマリー

下記の URL に 2001 年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

合同大会ホームページ

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

詳しくは上記のホームページをご覧ください。情報は随時更新しますので、参加者は是非、時々ご覧いただくようお願い致します。

§ 1.1 各種の登録

以下の登録はすべて上記ホームページから行なって下さい。

- 1) 個人情報登録
- 2) 事前参加登録
- 3) 予稿集原稿登録
- 4) 宿泊登録

1), 2) は参加者全員に必須です。2) を行なうためには、前もって 1) が必要です。ただし、昨年度登録済の方は再度行う必要はありません。講演申し込みをされる方は 1), 2) に加えて 3) 予稿集原稿登録を行なって下さい。共著の場合は、共著者についても 1) が必要ですのでご注意下さい。

会場の青少年総合センターへの宿泊を希望される方は、1), 2) に加えて、4) 宿泊登録を行なって下さい。

* 当日発表される方も参加登録が必要です。昨年は参加登録をされずに、会場で直接発表される演者が多数いましたので、ぜひ事前登録されることをお勧めします。

§ 1.2 住所変更

プログラムおよび予稿集 CD-ROM は、事前参加登録者のみに 5 月末頃迄に発送される予定です。転勤・卒業等で住所変更が生じた方は、合同大会ホームページ

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/> 上で、4 月 30 日までに住所変更手続きを行なって下さい。

§ 1.3 各種登録締切日および費用

予稿集原稿登録

締切：3 月 2 日（金）午後 5 時

投稿費（1 件につき）：1,500 ~ 3,000 円

図の追加料金：1,000 円

事前参加登録

締切：3 月 30 日（金）午後 5 時

参加費：一般 9,000 円，学生 6,000 円

宿泊登録

締切：3 月 30 日（金）午後 5 時

（但し、定員を超えた場合にはこの前に

締め切られます。）

宿泊費：例年とおり、ユースホステルタイプ

及びビジネスホテルタイプの固定スケジュールのものを用意します。

ユースホステルタイプ

4 泊（6/4-7）コース 11,000 ~ 13,000 円

ビジネスホテルタイプ

4 泊（6/4-7）コース 19,000 ~ 21,000 円

予約数の関係上、3 泊・5 泊コースも検討中。

§ 1.4 保育希望の方へ

1-6 歳児の託児サービス（利用時間に応じて実費負担）をご希望の方は以下のアドレスまで、電子メールでご連絡下さい。0 歳児のいらっしゃる方、就学児童をお連れの方なども別途ご相談に応じます。

木戸 ゆかり

海洋科学技術センター

海底下深部構造フロンティア

〒237-0061 横須賀市夏島町 2-15

E-mail: kidoy@jamstec.go.jp

§ 2 セッション案内

講演要旨の投稿は、1 ~ 2 月中に合同大会ホームページ（§ 3 参照）上で行なって下さい。最終締切りは 3 月 2 日（金）です。暗くならないためスライドが使用できないセッション会場がありますので、講演申込みの時ご注意下さい。電子投稿に関する質問は下記で受け付けます：（土日・祝日を除く）

地球惑星科学関連学会 2000 年合同大会
登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 4 番 9 号
サンケイビル本館 7 階 株式会社ジェイコム内

E-mail: earth@jtbcom.co.jp

Fax: 06-6456-4105

どうしても電子投稿の手段が確保できない方は下記にご連絡下さい。

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113 - 0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部新 1 号館 719 室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5800-6389

上記「合同大会ホームページ」にセッション一覧リストが置かれていますのでご参照下さい。尚、それぞれのセッションについての問い合わせは、ホームページにあります各セッションの連絡先へお願いします。

§ 3 個人情報登録，事前参加登録，講演登録，宿泊登録

上記の全ての登録は § 1 で書いた「合同大会ホームページ」にて行なって下さい。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/> 登録内容は以下のとおりです：

1. 個人情報登録 (個人情報 ID 番号 取得)
2. 事前参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

個人情報登録と個人情報 ID 番号

* 既に個人情報登録をされて ID 番号を取得している方: ID 番号は今年度も有効ですので再登録は必要ありません。所属や身分が変わった方は「合同大会ホームページ」において個人情報変更を必ず行って下さい。ご自分の ID 番号やパスワードを忘れた方は「合同大会ホームページ」の「各登録方法について」にアクセスして問い合わせることができます。

* まだ個人情報登録されていない方(共著者を含む): まず 個人情報登録 を行なっていただき、個人情報 ID 番号 を取得して下さい。登録された個人情報は、個人情報 ID 番号によって参照され、参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録に利用されます。この際、講演者だけでなく共著者も個人情報 ID 番号の登録が必要です。共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は、予稿集に共著者名が載らないこととなりますのでご注意ください。個人情報登録後は、著者リストには個人情報 ID 番号を入力するだけで OK です。共著者がすでに個人情報登録を済ませている場合は、ID 番号を「合同大会ホームページ」にて検索できます。

個人情報登録のために必要な情報としては以下を予定しています:

氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に
所属学会 (複数選択式)
所属機関名 (漢字, カタカナ, 英語)
所属機関名略称 (漢字, 英語) (表示用)
所属機関住所 (漢字, 英語)
身分 (学生, 一般 選択式)
学生証番号 (学生の場合) (学生確認用)
一般の場合タイトル (教授, 助教授, 助手, 等)
TEL, FAX, E-mail

これらのデータは、次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です。

事前参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

詳細は § 1 に書いた「合同大会ホームページ」
<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>
をご覧ください。必要な情報は 1999 年大会, 及び 2000 年大会とほぼ同じです。予稿集原稿は原則として、通常テキスト形式のみとします。図については、図処理用追加料金 1,000 円で受け付ける予定です。

プログラム編集作業

現段階では仕様は未定です。各セッションのセッションマスター 1 名(提案者, 連絡先, コンピナー等のうちの 1 人)が、プログラム編集用のホームページにて作業を行ないます。

§ 4 投稿費および参加費

本年度より「郵便振り込み」のみで集めさせていただきます。予稿集原稿登録料と参加費は(センター宿泊の場合は宿泊費も)一括請求されます。参加申込み後、郵便振り込み用紙が郵送されます。校費扱いにつきましては財務担当(中村 電話 03-5841-4591 メールはご遠慮下さい。)へお問い合わせ下さい。

§ 4.1 予稿集原稿登録料

受付日時

1月10日(水)~2月23日(金)午後5時
1,500円
2月23日夜 ~3月2日(金)午後5時
3,000円

予稿集原稿に図を入れた場合の 図処理用追加料金は 1,000 円です。

§ 4.2 参加費

事前登録: 3月30日(金)午後5時まで

一般 9,000円

学生 6,000円

当日登録: 大会期間中の会場の総合受付にて、現金払いのみ。

(大会当日は午前8時30分~午後3時の予定)

一律 12,000円

§ 4.3 取消手数料

振込後、参加を取り消されても予稿集原稿登録料の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

参加費の取消手数料

2000年5月15日(火)まで: 1,000円

2000年5月16日(水)以降取り消しできません

§ 5 青少年総合センターへの宿泊

大会会場の青少年総合センター附属の宿泊予約の締め切りは3月30日です。但し、確保しました部屋数には限りがありますので、申し込み数が定員を超えた場合にはその前に締め切ることもあります。宿泊予約は以下のホームページ上でのみ行っており、郵便、FAX 等ではできません。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>
チェックインはセンター棟103号室(当日の大会受付と同じ部屋)で午後5時30分から午後9時までに行ってください。午後9時以降のチェックインはできませんのでご注意ください。

部屋はすべて個室(男女別)ですが、ビジネスホテルタイプ(バス・トイレ付き)とユースホテルタイプ(バス・トイレ共同でベッドメイキングは利用者が行う)の2種類があります。

宿泊費 § 1.3 をご参照下さい。

学会からのお知らせ

宿泊費, 予稿集原稿登録料と参加費と共に一括請求されます。(§ 4 参照)

詳細は「大会ホームページ」をご覧ください。

宿泊費の取消手数料

2000年6月1日(金)まで: 無料

2000年6月2日(土)~8日(金): 1,000円

2000年6月9日(土)以降, 全額(返金しない)

§ 6 運営機構からのお知らせ

§ 6.1 大学LOCから運営機構へ

大会も回を重ね2001年大会で, 12回目を数えます。21世紀の始めとなると同時に, その運営が各大学LOCから新たに発足した合同大会運営機構へと移行されて, 初めての開催となります。過去の多くの研究者・大学関係者の皆様のご尽力を無駄にせず, 今後継続的に, 魅力溢れ意義ある大会の開催を目指します。何分にも新体制で, 不慣れな部分も多く, 行き届かないことも多々あると思いますが, 立ち上げ時故とご了承いただきたく, 同時に, 地球惑星関連の研究者皆様ご自身の大会として育てていただきますようご協力をお願い致します。運営機構は合同大会開催へ携わろうとする各学会や研究者にオープンな組織です。多数の皆様の参加を歓迎いたします。ご意見ご希望がございましたら, 遠慮なくご連絡下さい。今後の蓄積とさせていただきます。

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく, 2001年合同大会の準備状況, 各学会へのリンク, 地球惑星科学関連の専攻, 学科, 研究所へのリンク, 連絡会のお知らせ, 等を掲載していきます。

URL <http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>

§ 6.2 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付けは, 以下の時間に開設する予定です。

当日参加受付

大会前日 3日(日) 受け付けしません

大会期間中の受付

4日(月)~8日(金)

AM 8:30 ~ PM 3:00 センター棟 103号室

宿泊施設のチェックイン

4日(月)PM 5:30 ~ 9:00 センター棟 103号室

3日(日)・5日(火)の受付も検討中。

§ 6.3 懇親会場

ポスター会場近くのレセプションホールに最終日を除く毎夕, 議論・歓談できる空間を設ける予定です。

§ 6.4 展示申請

研究団体・出版社・企業などによる研究紹介・書籍・機器などの展示を希望される方は次の項目を文書に明記して, 3月末日(最終締切)までに申請して下さい。申し込み用紙も事務局に用

意しております。直接ご請求下されば, 詳細と合わせて郵送致します。詳細は, 後日ホームページ上に案内掲示予定です。

(1) 団体名・所在地

(2) 担当者氏名, 電話, Fax, E-mail等

(3) 展示内容, 必要スペース・電力等

(宛先)

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113 - 0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部新1号館 719室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5800-6389

§ 6.5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは以下の5項目を明記の上, 4月末日までに運営機構総務局 2001年担当責任者岩上(iwagami@eps.s.u-tokyo.ac.jp)までメールにてお願いいたします。WWW上では申し込みできません。使用料は下表の通り。尚, 希望に沿えない場合があります。特に食事可能な部屋は2つしかありません。

1) 会合名称

2) 申込み責任者とそのメールアドレス

3) 希望する部屋の大きさ(下表参考)

4) 希望する時間(開始・終了時刻)

5) 食事の希望有無

定員 160人越え ¥10,000

定員 160人まで ¥7,000

定員 80人 ¥4,000

定員 40人 ¥2,000

定員 20人 ¥1,000

定員 20人(食事可能) ¥4,000 (部屋代のみ)

部屋の利用時間は1コマの単位(1.5時間を目安)とします。

§ 6.6 2001年合同大会組織委員会の構成と連絡先(省略)

お問い合わせ先

大会全般・大会プログラムなど内容に関して

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113 - 0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部新1号館 719室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5800-6389

参加登録・予稿集原稿登録など実務作業に関して
地球惑星科学関連学会 2001年合同大会 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田 2丁目 4番 9号

サンケイビル本館7階 株式会社ジェイコム内

E-mail: earth@jtbcom.co.jp

Fax: 06-6456-4105

(お問い合わせ受付時間)月曜日~金曜日 9:30 ~ 18:00(土日・祝日を除く)時間外にいただきましたお問い合わせにつきましては返答が次営業日になりますのでご注意ください。

房総半島の地震性地殻変動：新たな視点 - フィールドワークショップのお知らせ

日本第四紀学会ネオテクトニクス研究委員会

期日：2001年5月12日(土)・13日(日)

オーガナイザー：宮内崇裕・荻谷愛彦・奥村晃史

主催：日本第四紀学会ネオテクトニクス研究委員会

房総半島の地形と地質は、相模トラフとその周辺で起こる地殻変動の天然の記録装置といえます。この記録の解読と分析は1923年関東地震に伴う地変の記録や1960年代の沼段丘の記載以来、多くの研究者の関心を集め、数多くの重要な成果がもたらされてきました。そして、1990年代後半には、海岸低地の微地形や津波堆積物の詳細な研究から相次いで重要な新知見が得られ、新しい地殻変動像が提唱されています。このフィールドワークショップでは、シンポジウムと巡検の中で、1990年代および現在進行しつつある研究の最新の成果をレビューし、その問題点を整理し新たな研究の動向をさぐることを目的とします。地震性地殻変動・古地震、変動地域の海岸地形形成、津波堆積物等さまざまな第四紀の情報が総合され房総半島の地殻変動の解明が進められることを期待して多数の方々の参加をお待ちしています。

シンポジウム

5月12日(土)午前9:30～午後16:00 千葉大学理学部 [予定：第四紀通信8-2号で詳細をお伝えします。]

シンポジウムではオーガナイザーが準備した数名の方の発表を予定していますが、同時に海岸域における地震性地殻変動と古地震に関する研究発表を公募いたします。発表のテーマは房総半島の地震性地殻変動に限りませんが、発表希望者が多数の場合はポスターによる発表をお願いすることもあります。発表希望者は題目・ポスター発表の可否も含め下記 - 奥村までご連絡ください(3月15日締切)。

巡検

5月13日(日)参加者は前日館山に宿泊

館山 - 布良(津波堆積物) - 館山 - 岩井 - 保田ほか(段丘地形・隆起汀線) - 館山または木更津(解散)

案内者：宍倉正展・藤原 治・石田大輔 [予定]

参加費：約1万円(バス代・昼食代・資料代など。当日精算いたします。バス以外の交通費と12日夜の宿泊は各自負担)

参加申し込み：下記 - 奥村へ電子メールまたはファックスで『房総ネオテクトニクス巡検参加希望』を明記のうえ、氏名・所属・住所・電子メールアドレス・ファックス・電話番号をお知らせ下さい。それと同時に申込金10,000円を下記口座あてお振り込みください。締切は3月15日です。先着順で40名までのお申し込みを受け付けます。申し込みが40名に満たない場合、バスの都合により20名で締め切ることもあります。定員に余裕があるかどうかは電子メールで奥村までお問い合わせください。集合・解散、宿泊(主催者が準備する予定です)等の詳細は参加申し込みをされた方に別途お知らせします。

連絡先 奥村晃史 (〒739-8522 広島大学文学部地理学教室)

電子メール：kojiok@hiroshima-u.ac.jp

可能な限り電子メールをご利用下さい。ファックス・郵送等の場合対応が遅れる場合があります。

ファックス：0824-240320 電話：0824-246657, 246659

巡検参加費振込先 広島銀行 西条支店 普通口座 1415123 奥村晃史

INQUA 層序委員会ヨーロッパ小委員会シンポジウム
鮮新 - 更新統, 下部 - 中部更新統境界に参加して

熊井久雄 (大阪市立大学理学部)

2000年9月25日から29日にかけて, 南イタリアのバリ市, バリ大学で Subcommission on European Quaternary Stratigraphy (SEQS)主催のシンポジウム The Plio-Pleistocene Boundary and the Lower-Middle Pleistocene Transition: Type Area and Section が開催された。シンポジウムは25・26日の両日で, 27日から29日までは討論の対象となったセクションについて現地での巡検と現地討論会が行われた。下部 - 中部更新統の模式境界を千葉の房総セクションで提案している私たちとしては, ヨーロッパでの研究の現状を探る必要があるために, このシンポとどちらかという候補地を見るために参加した。残念ながら, アジアからの参加者は私一人で, したがって, この報告を書く羽目に至った。

鮮新 - 更新統境界については, 一昨年, 国際地質学連合(IUGS)の層序委員会(ICS) Sub-commission on Stratigraphy of Neogene と Subcommission on Stratigraphy of Quaternary (INQUA の Commission on Stratigraphy と同じメンバー) による合同の投票によって, 境界を250万年程度まで下げる案が否決されたことによって, 旧来のプリカセクションが残った格好になっている。ただし, このことはICSがプリカセクションを正式な模式露頭に決定したというわけではない。プリカセクションの露頭を前にした議論でも, 古地磁気層序や深海底コアとの対比, 火山灰層序などにまだ多くの問題が残されているようである。

下部 - 中部更新統境界については, イタリア南部カラブリア地方だけで3カ所もの候補地があり, それぞれに調査・研究が進められているようであるが, いずれも研究途上という印象を受けた。候補地は, Montalbano 地域と S. Mauro Marcedusa 地域, Vrica Section 上部であったが, いずれの地域もいわゆる Badland と呼ばれる荒れ地で, ほぼ全面露頭という好条件の所に設定されている。いずれの地域も火山灰層や軟体動物化石を多く含んでいて, 情報量は豊富のようであったが, それらについての詳細な研究はいまだ途上と思われる。千葉セクションの方が良いと思った。露頭を前にして, 主催者の一人である Dr. Cita M.B. は千葉セクションの古地磁気層序などの対比が必要であるなどと若手にハッパをかけていた。巡検が終わった後, 今後の研究方針などが検討された中で, 古地磁気を始め精査をするための研究グループの結成が確呼びかけられ, SEQS の作業部会として出発することになった。シンポ参加者はヨーロッパ各国から約60名。

今回のSEQSの年回は2001年9月9日 - 14日にウクライナのキエフ市で開催されることになった。詳しく知りたい方は, <http://www.ukrnet.net/~hydro> または e-mail geras@gu.kiev.ua の Natalia Gerasimenko までコンタクトされたい。

10th International Conference on Luminescence and
Electron Spin Resonance Dating
FIRST ANNOUNCEMENT AND CALL FOR PAPERS

10th International Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating
24-28 June 2002
University of Nevada-Reno, Reno, Nevada, U.S.A.

The Desert Research Institute invites you to the 10th International Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating (LED 2002), to be held at the University of Nevada-Reno, in Reno, 24-28 June, 2002.

GENERAL INFORMATION

All interested persons can access information at the conference WEB site,
<http://www.dri.edu/DEES/LED2002/led2002-home.html>
or request information by Email at LED2002@dri.edu

Participants will be responsible for their own room reservation. Visit the Conference WEB site for information about accommodation and other topics.

地震調査研究と地震防災工学の連携ワークショップ 「地震動予測地図の作成に向けてー現状と今後の課題ー」

地震調査研究推進本部地震調査委員会では地震動予測地図作成のための検討を行っています。本ワークショップは、地震動予測地図の現状や地震調査委員会の取り組みについての報告をもとに、地震調査委員会が作成する地震動予測地図について議論を深めることを目的として開催するものです。

<主催> 文部科学省

日時：平成13年3月21日（水）10:00～17:00

場所：損保会館（東京都千代田区神田淡路町2-9 JRお茶の水駅より徒歩5分）

<プログラム>

- ・ 背景説明 地震動予測地図作成の現状と全体計画について(地震調査研究推進本部事務局)

I部 講演

[午前の部]

- ・ 長期評価の現状 島崎邦彦（東京大学）
- ・ 活断層による地震発生ポテンシャル 杉山雄一（地質調査所）
- ・ 特定の活断層を起震断層とした強震動の評価手法 入倉孝次郎（京都大学）

[午後の部]

- ・ 地震災害の軽減には今何が必要か 武村雅之（鹿島建設）
- ・ 地震ハザードマップの作成と課題 石川 裕（清水建設）
- ・ 市民や技術者に分かり易い地震動の強さ情報の必要性 翠川三郎（東京工業大学）
- ・ 地域における地震動予測地図への対応と防災への活用 福和伸夫（名古屋大学）

II部 パネルディスカッション

地震動予測地図の今後の展望

コーディネータ：久保哲夫（名古屋工業大学）

パネリスト：上記講演者ほか

参加費：無料

定員：180名（先着順）

参加申込方法：

氏名、住所、電話（FAX）番号、勤務先を記入し、はがき又はFAXで下記へお申し込み下さい。折り返し参加票をお送りいたします。（締め切り3月14日（水））

申込先：

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-5-18 千代田本社ビル5階

（財）地震予知総合研究振興会地震調査研究センター

連携WS係 TEL：03-3295-1501 FAX：03-3295-1507

内容についての問合せ先：文部科学省研究開発局地震調査研究課 TEL：03-3503-8168

Global Change Open Science Meeting: Amsterdam, July 10-13, 2001

The IGBP, WCRP and IHDP are joining forces and hosting a major open science conference on global change to be held in Amsterdam, July 10-13, 2001.

Details are available on the conference website <http://www.sciconf.igbp.kva.se/>

PAGES will be represented at the meeting with two keynote talks as well as several parallel oral sessions and poster sessions. This is an open call to the PAGES community to be involved in this congress which will be a major venue at which the relevance of your paleoscience research to the broader Earth System Science community can be demonstrated. Probable PAGES poster clusters include: PANASH, IMAGES, Polar Programs, Environmental Processes and Human Dimensions, and the CLIVAR/PAGES Intersection. Suggestions for PAGES poster cluster themes, and nominations for people to coordinate them, may be sent to isabelle.larocque@pages.unbie.ch. To submit abstracts and register please use the conference website.

The PAGES keynote talks at this conference are:

Climate Change Fore and Aft: Where on Earth are We Going? Thomas F. Pedersen
(University of British Columbia, Canada)

1000 Years of Climate Change. Raymond S. Bradley, (University of Massachusetts, USA)

Selected PAGES relevant parallel sessions include:

A1 Global Carbon Cycle,

A3 El-Nino Southern Oscillation in the context of past and future climate variability,

B4 Coupled Earth System Modeling.

C4 Non-linear Responses and Surprises to Global Change , and

C5 Long Term Perspectives on ecosystem management for sustainability.

Human Dimensions and Natural Processes in Environmental Change

Field Tour: Pre-conference, May 12-14, 2001(Loess Plateau in Shaanxi Province)

Post-conference, May 18-19, 2001(Culture and history)

Conference: May 15-17, 2001

Place: State Key Laboratory of Loess and Quaternary Geology,

Institute of Earth Environment, Chinese Academy of Sciences, Xian P.R. China.

Proposed Conference Topics:

1. Deep background,

2. Quaternary climate variability,

3. Environmental changes of the last few centuries ,

4. Human impact and modeling,

5. Societal impacts

Conference Program Committee:

An Zhisheng, Chen Yiyu, John. Dodson, John E. Kutzbach, Qin Dahe, S. C. Porter, and

J. Vandenbergh,

Submit abstracts by E-mail to Zheng Hongbo (hzheng@loess.llqg.ac.cn) **by March 30, 2001**

For more information , or to be added to the mailing list, contact Miss Aili (State Key Laboratory of Loess and Quaternary Geology: FAX: 86-29-552-2566, Email: aili@loess.llqg.ac.cn)

[日本第四紀学会ホームページにファーストサーキュラー全文を掲載しております .]

5th International Conference on the Cenozoic Evolution of the Asia-Pacific Environment

Date: 29th October to 1st November, 2001

Venue: The University of Hong Kong, Hong Kong SAR, China

Organiser: Department of Earth Sciences, The University of Hong Kong

Organising Committee: Allan Chivas, Edward Derbyshire, Jiamao Han, Nina Jablonski,

Tungsheng Liu, Changqing Song, Shu Sun, and Wyss Yim,

Background and theme:

The main theme of the 5th conference is to examine the evolution of the Asia-Pacific environment in the regions covered by the Pole-Equator-Pole (PEP) II transect extending from the Russian Pacific region down to New Zealand including its role in the 21st century. All aspects of palaeoenvironmental evolution will be covered with special focus on the Quaternary record of glacial cycles.

Paper presentations:

Both oral papers and poster papers are acceptable. Each participant is encouraged to present one oral paper and one poster paper.

Deadlines:

Return of preliminary registration form 1st February, 2001

Submission of abstracts 1st May, 2001

Contacts:

Dr Wyss Yim (The University of Hong Kong Fax: 852-2517 6912 E-mail: wwsyim@hku.hk)

[日本第四紀学会ホームページにファーストサーキュラー全文を掲載しております .]

INQUA 名誉会員池辺展生先生のご逝去を悼む

本学会設立時の評議員・第9期第四紀研究連絡委員会委員長・大阪市立大学名誉教授池辺展生先生は2000年11月5日に逝去されました。享年89才でした。

池辺さんは、1912年に生まれ、1935年に京都帝国大学理学部地質鉱物学科を卒業、1938年に地質調査所技師となり、太平洋戦争中は、1942年よりジャワのバンドン地質調査所にて、石油地質調査に従事しました。1946年に復員、1947年に京都大学理学部助教授、1950年には大阪市立大学教授となり、理学部地学教室の創設と発展に尽力し、1976年に定年退官されました。

池辺さんの主要研究分野は、日本の新生代層の研究とくに新第三紀層の生層序学的研究でした。しかし、池辺さんは、近代的な地質図を日本で最初に作成した地質学者である恩師・中村新太郎の言葉「地質の調査・研究は、洪積層からはじめるのがよい」に従って、大学1回生で湖西堅田の古琵琶湖層を、2回生では湖東甲賀の古琵琶湖層を調査・研究しました。火山灰層を追跡して作成された甲賀地域の地質図は、その後の近畿の湖成鮮新・更新統の調査の手本となりました。

戦後、池辺さんは、高井冬二・鹿間時夫らとともに、第四紀学会設立のために、地質学研究連絡委員会第四紀小委員会の委員として、また、第四紀学会設立時の評議員として、第四紀学会の発展に尽力されました。さらに、日本学術会議では、第9期第四紀研究連絡委員会委員長、第9回INQUA大会(ニューゼaland)の日本代表として活躍されました。大阪においても、1960年代の地盤沈下対策に、池辺さんを中心としたグループが、対策の決め手となる研究データを提供したことは、特筆されることです。

謹んで、池辺展生先生のご冥福を祈ります。(市原実)

2000年度 第2回幹事会議事録

日時：10月28日(水) 10:30～13:00

会場：筑波大学学校教育学部 合同会議室 E235

参加者：米倉伸之、熊井久雄、真野勝友、斎藤文紀、
中村俊夫、鈴木毅彦、奥村晃史、松浦秀治、
中川庸幸

欠席者：小田静夫、福澤仁之、竹村恵二、

< 1 > 報告事項

1. 庶務

- 1) 受け入れ図書の整理を行った。
- 2) 第18期日本学術会議の第四紀研究連絡委員会(13名構成)の第四紀学会からの推薦(9名)を評議員による互選により、以下の会員に決定した。小泉 格・斎藤文紀・真野勝友・吉川周作(以上地質古生物)、海津正倫・町田 洋(地理)、小野昭(考古人類)、坂上寛一(土壤動物植物)、中村俊夫(地化地物工学)。
- 3) 第18期日本学術会議の古生物学研究連絡委員会(12名構成)の第四紀学会からの推薦(2名)を、上記選挙結果を参考にし、小泉 格・辻誠一郎会員の2名に決定した。
- 4) 第18期日本学術会議の地質科学総合研究連絡委員会応用地質小委員会への推薦1名を、上記選挙結果を参考にし、真野勝友会員に決定した。
- 5) 北海道開拓記念館主催シンポジウム「フゴッペ洞窟シンポジウム：過去・現在・未来」の後援が確認された(幹事会内のメールで承認済み)。
- 6) 2000年大会で出版された「日本先史時代の¹⁴C年代」が大会事業の一部として400部の増刷が報告された。
- 7) 平成13年度科研費研究成果促進費「研究成果発表」の募集連絡が届いており、国際集会や普及講演会など積極的に取り組むことになった。
- 8) 2000年度第2回の評議員会は、ミニシンポと合わせて2001年1月27日(土)に行うことになった。

2. 会計

会誌・会報の印刷費と発送費が若干高めだが、大会の予稿集や大会費用の節約で全体としては順調に推移している。

3. 行事

2000年大会は、プレシンポジウム参加者141名(会員79名、非会員62名)、一般公演・シンポ参加者279名(会員195名、非会員84名)、懇親会参加者85名、巡検参加者38名(案内者を含む)であった。また「先史時代の¹⁴C年代資料集」は660冊完売し、好評であった。2000年大会は予算的にも約16万円の戻しがでるなど成功裏に終了した。2001年大会については信州大学から内諾を得た。

4. 渉外

- 1) 2001年合同学会については、四紀学会提案セッションの「第四紀」の他に、「古気候と古海洋変動」「堆積物と堆積作用」「地球年代学」「長期火成活動と火山発達史」を共催し、「活断層と古地震」についても共催依頼を行うことになった。
- 2) 自然史学会連合関係では、10月14日に学会連合総会が開催され、予算、地域博物館アクションプラン等が審議された。総会と同じ日にシンポジウム「21世紀の自然史科学における画像データベース」が開催された。

5. 企画

- 1) 2001年1月27日に埼玉県立博物館において「秩父原人をめぐる諸問題」のミニシンポを企画中。
- 2) 第8回日本第四紀学会講習会は、鹿児島県上野原遺跡で開催予定で、現在準備中。

6. その他

< 2 > 審議事項

- 1) 粕野義夫会員から「石川県地質誌・補遺」への第四紀研究の図版転載願いが承認された。
- 2) 第7回国際古海洋学会の進捗状況が報告され、日本四紀学会としても支援できるよう討議した。
- 3) 会費滞納者については12月の請求書に再度、督促状を入れることになった。
- 4) 当面の検討課題について広く議論した。

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3
kojiok@hiroshima-u.ac.jp
Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

次号は3月上旬原稿締切 - 4月上旬発行予定です。
インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>で最新情報をチェックして下さい。